

中学校におけるスクールエンパワーメントの取組み の分析

—カリキュラムマネジメントに着目して—

学籍番号 199320

氏名 佐野雄紀

主指導教員 石川聡子

第1章 背景

スクールエンパワーメント推進事業とは、学力向上に積極的に取り組む学校を指定し、学力向上の取組みの中心となる担当教員を配置する取組みである。

泉南市では、組織的かつ計画的に、日々の授業づくりや学習規律の向上、自学自習力の育成や保護者等との連携などの取組みを進めている。

摂津市では、課題に応じた一貫性のある教育活動の展開を図るため、授業改善の核となる教員を育成するために「せつつスクール広場」を開催し、教科研究の充実を図っている。

旧豊中市立第六中学校は2016年度よりSE推進校に指定されていた。学校研究活動状況や研究結果を「SEだより：スクールエンパワーメント事業だより」（以後「SEだより」。）より、発信していた。その内容について、その取組みを確認することによって、スクールエンパワーメントの具体を明らかにすることができると考えた。

第2章 本研究の目的と方法

本研究の目的は、A中学校が2019年度に発行したSEだよりの内容をカリキュラムマネジメントに着目して分析することにより、当スクールエンパワーメントの取組みの成果と課題を明らかにすることである。

SEだよりに書かれている内容を要約し、KJ法を用いることによって、新学習指導要領、カリキュラムマネジメント、組織としての活動、授業づくりの4つの視点を抽出した。それぞれの視点について、SEだよりに書かれた内容を時系列に整理し、1年間の取組みの動向などをPDCAサイクルに沿ってまとめた。

第3章 結果と考察

3.1 視点「新学習指導要領」の結果と考察

全教科の関連に視点を置き、カリキュラムを組み直すことの重要性が述べられていた。ただ、授業実践の記載が2例と少ない。具体例を示すことで、スクールエンパワーメントの取組みに対する教職員の視点はより鮮明になり、その意識は向上するものと考ええる。

3.2 視点「カリキュラムマネジメント」についての結果と考察

カリキュラムマネジメントに関しては、SE 担当者が外部研修に参加した一件の記載のみで、教職員全体での取組みに関する記載はなかった。この年度は授業づくりに重点を置いたためであると考ええる。

3.3 視点「組織的な活動」についての結果と考察

SE 担当者が学期ごとに行うアンケートを分析し、生徒の強みや課題を発信している。これより、様々な議題がSE 推進会議等で取り上げられている可能性があると考ええる。

3.4 視点「授業づくり」についての結果と考察

各学期においてPDCAに該当する項目が示されていたことから学期ごとに授業づくりにおけるPDCAサイクルが行われていることが読み取れる。公開授業等においても、PDCAサイクルを実践し、全教職員が授業づくりの方向性を共有していたと考ええる。

3.5 「各視点の関連性」についての結果と考察

SE だよりには、上記4つの視点の関連性に関する記述はなかった。この点は、この取組みを学校全体のものとして位置づけるためには重要であるため、今後の課題と考える。

第4章 結論

A中学校が2019年度に発行したSE だよりの内容を新学習指導要領、カリキュラムマネジメント、組織としての活動、授業づくりの4つの視点から分析した結果、それぞれの視点においてはSE 担当者が中心となり、課題解決に向けて取り組んでいる。しかし、SE だよりには、上記4つの視点の関連性に関する記述はなかった。各視点を関連づけ、スクールエンパワーメントの取組みを推進してゆくことは、この取組みを学校全体のものとして位置づけ、バランスよく推進してゆくために重要である。ゆえに、今後の課題と考える。